平成 29 年度（2017 年度）

金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

刑　　法

Ｄ日程入試

（注意）
１．問題冊子（表紙を含む）は２枚です。
２．問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
３．問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
４．解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。

平成 29 年度（2017 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	刑　　法

問題

つぎの事例を読んで、Ｘの罪責を論じなさい（参照条文以外の特別法違反の点を除く）。

被告人Ｘは、某日、普通乗用自動車を運転中、同車の前をＡ（当時３９歳）の関係者であるＢが歩行していたため、クラクションを鳴らし、道路の脇に移動して立ち止まったＢとＡ、Ｃを追い越した。その後、Ａは、Ｘ車を追いかけ、停止した同車に追いついた。

Ａは、低速で走行するＸ車とともに移動しながら、大声で「殺すぞ。」、「降りて来い。」、「出て来い。」などと怒鳴りながら、Ｘ車の運転席側窓ガラスを何度も手拳で殴打したり、運転席ドアノブを引っ張ったり、運転席側のドアを蹴ったり、Ｘ車の運転席側の路上にあった自転車を胸の辺りまでかつぎ、ドア付近に下ろす感じで当てようとするなどしており、Ｘも、これらの事実を認識していた。その後、ＣもＸ車に追いつき、同様に怒鳴ったり、Ｘ車を損壊しようとしたりしており、この頃、Ｘ車のリアワイパーは引きちぎられた。

Ａは、次のＰ交差点でＸ車から一旦離れたにもかかわらず、Ｘ車が同交差点を左折した直後には、Ｘ車の運転席側ドアノブ付近をつかんでその直近におり、それまでと同様、運転席側のドアを殴ったり、大声で怒鳴ったりしており、Ｘも、これらの事実を認識していた。

Ｘ車は、Ｐ交差点を左折後に短時間加速したが、その後Ｑ交差点進行方向の信号機が赤色表示となっており、またＸ車の前方にはタクシーが走行していたことから減速し、Ｒ地点付近でほぼ停止状態となった。この頃、Ｘは、ＡがＸの車を追いかけており、このままでは再度Ｘの車に追いつくかもしれないと切迫した心理状態になっており、追いかけてくるＡから遠ざかるために、Ｘ車を走行させる進路を確保しようとして、クラクションを鳴らし続けていた。

この頃、Ｑ交差点進行方向の信号機が青色表示となり、Ｘ車の２台前を走行する黄色のタクシーが左折し、その直後を走行していた黒色のタクシーが、Ｘ車に進路を譲るため、右側に寄って停止したことなどから、Ｘ車の前方の空間が空いた。ＸはＲ地点付近でのほぼ停止した状態から発進、進行して加速し、時速１８km でＱ交差点に進入し、黒色のタクシーをかわすなどするため、多少左右に転把しながら、時速約３７km まで加速して走行した。

Ａは、少なくともＱ交差点南側停止線手前付近では、Ｘ車運転席のドアノブ付近をつかんで併走していたが、その際Ｘは、この事実を認識していなかった。

その後、Ａは、Ｑ交差点内において、Ｘ車の右後輪が通過している辺りの路上に落下し、右前胸部、右側頭部及び右顔面部分を、Ｘ車の右後輪に轢過され、死亡した。

＊参照条文…自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律　第５条